

# 水害レポート 2010

Report of Water – Related Disaster in 2010



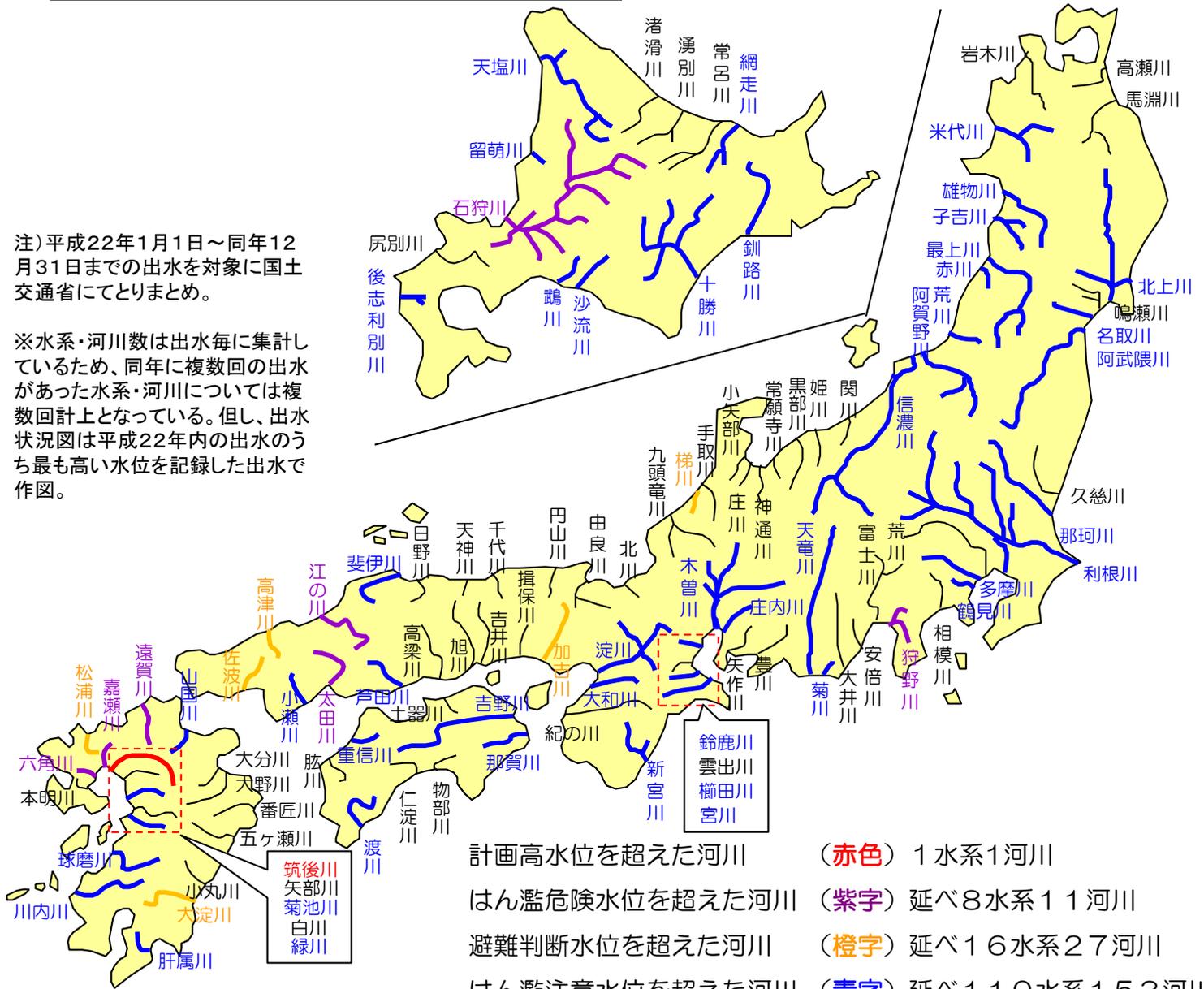
編集：国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

※記載内容は今後の調査等により変更となる場合があります。

## 平成22年の国管理河川の洪水状況

注)平成22年1月1日～同年12月31日までの出水を対象に国土交通省にてとりまとめ。

※水系・河川数は出水毎に集計しているため、同年に複数回の出水があった水系・河川については複数回計上となっている。但し、出水状況図は平成22年内の出水のうち最も高い水位を記録した出水で作図。



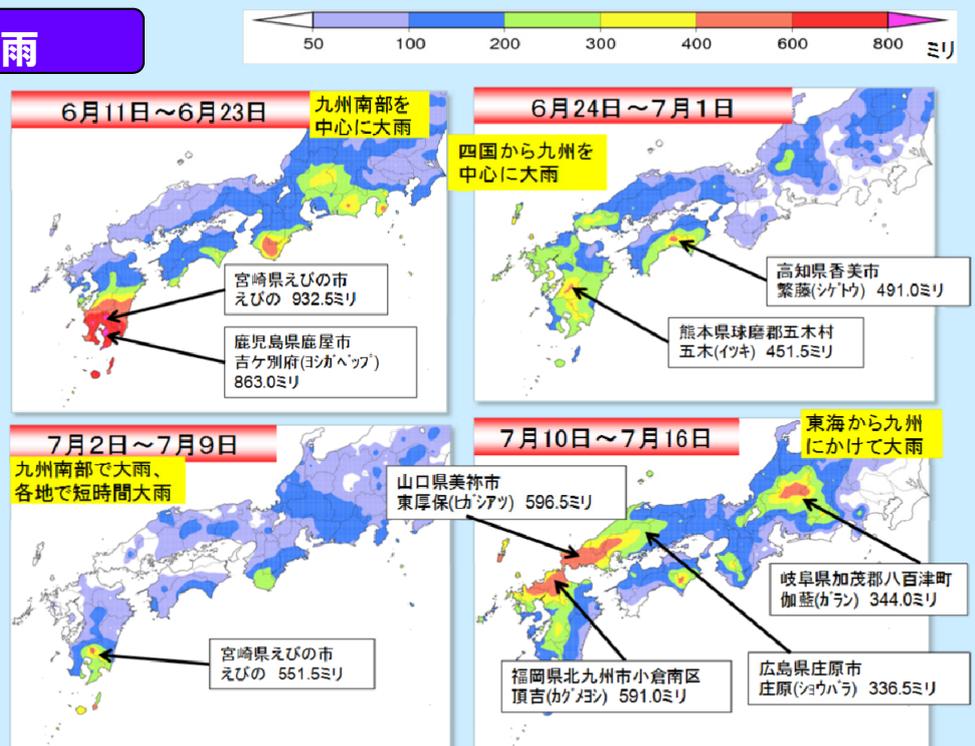
## トピックス 平成22年の梅雨

平成22年の梅雨は、6月中旬から7月中旬にかけて梅雨前線が九州から本州付近に停滞し断続的に活動が活発となったことから、九州から東北地方にかけての広い範囲で大雨となり、ところによって時間80ミリを超える猛烈な雨を観測。

特に九州南部ではこの間の総雨量が1,000ミリから1,500ミリに達し、平年の2倍を超える雨量となったところがある。

この間、九州北部や山口県、広島県庄原市、岐阜県可児市等で記録的な豪雨となり、洪水による死者・行方不明者や家屋等の浸水被害等が発生した。

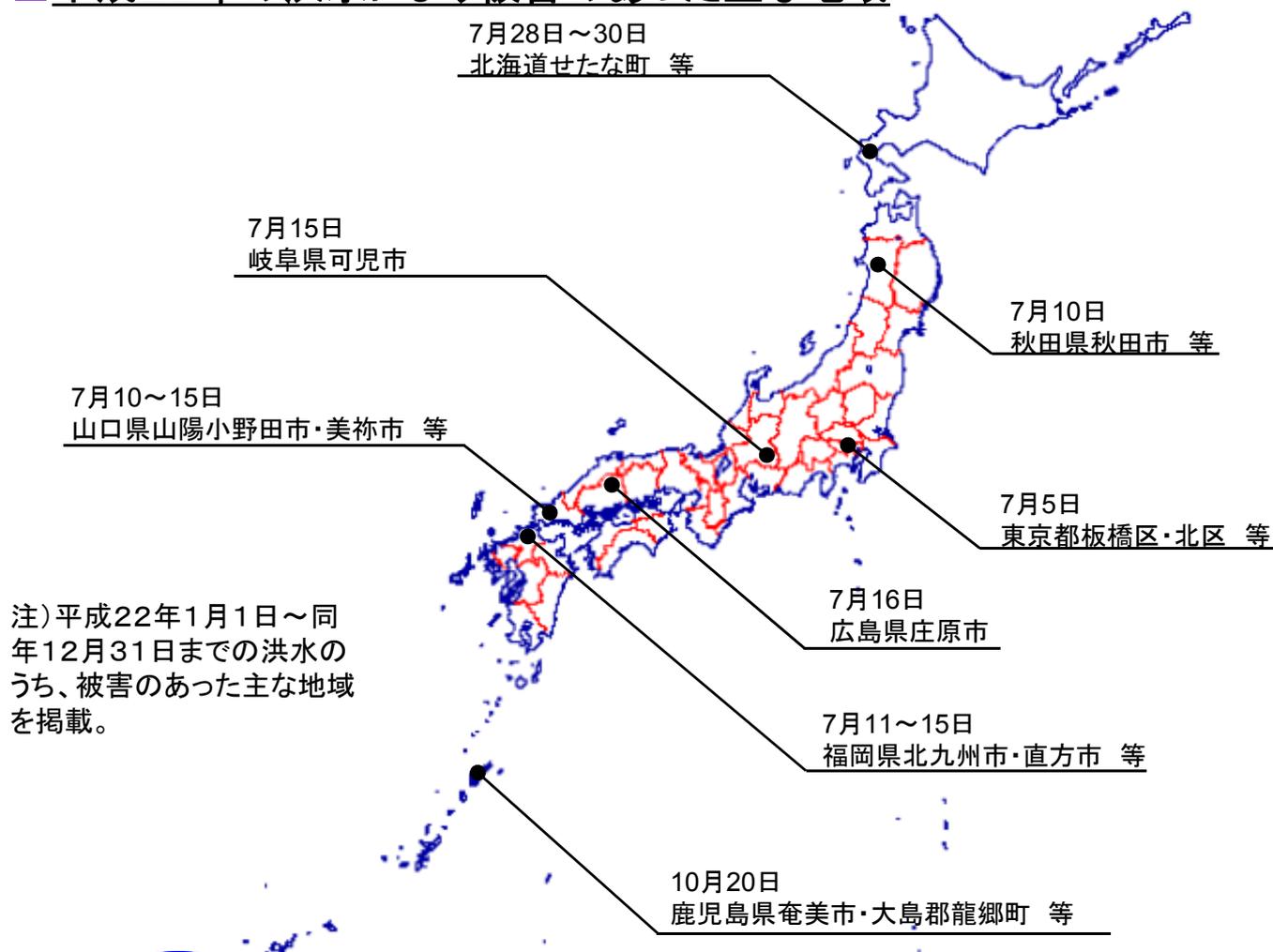
6月11日～7月16日間の総雨量分布図 (気象庁)



※気象データ及び総雨量分布図は気象庁発表資料による。(いずれも速報値であり、今後変わることがあります。)

# 洪水による各地の被害等

## ■平成22年の洪水により被害のあった主な地域



## 北海道 地方

## 平成22年7月28～30日／北海道

降り始めからの総雨量が200ミリを超える大雨  
後志管内を中心に家屋や田畑等浸水が発生

後志利別川の状況  
(せたな町北檜山区  
兜野橋)



低気圧の通過等に伴い、7月28日から30日かけて道内各地で大雨となった。後志管内の神恵内村では30日0時までの24時間雨量が171ミリに達するなど、道内6町村で観測史上最多の24時間雨量を記録した他、各地の時間雨量も7月としては観測史上最多となった。この雨により、雨竜川がはん濫危険水位に達する出水となった他、後志利別川水系の沿川で内水による家屋浸水被害が発生した。



▲ せたな町内の浸水状況  
(せたな町北檜山区徳島地区)

# 東北 地方

## 平成22年7月10日／秋田県

### 時間100ミリに迫る記録的な短時間降雨 秋田市で橋崩落や家屋浸水被害が発生



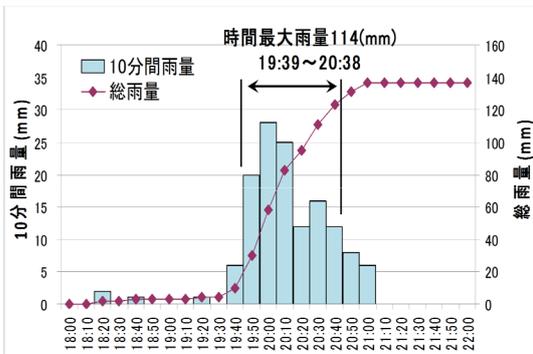
- ▲ 雄物川水系新城川・男鹿田橋崩落の状況(秋田市上新城)
- ▼ 雄物川水系仁別川の状況(秋田市仁別)

7月10日早朝、梅雨前線を伴う低気圧の影響により、米代川水系の雨量観測所で5時から6時にかけて1時間96ミリの降雨を観測し、気象台から2005年8月以来となる「記録的短時間大雨情報」が出されるなど、秋田県の北部や中央部を中心に集中豪雨が発生した。米代川流域では、2007年9月豪雨後に実施した復緊事業等の効果により大きな被害には至らなかったものの、秋田市では新城川と旭川が氾濫した。川の増水により橋が崩落し、橋に添架されていた水道管の破損によって375戸が一時断水したほか、家屋浸水や土砂崩れ等の被害が発生した。(秋田県発表：平成22年9月27日)

# 関東 地方

## 平成22年7月5日／東京都

### 時間100ミリを超える非常に激しい雨を観測 都内で中心に450棟を超える家屋浸水被害が発生



石神井川沿川の状況(東京都北区)



7月5日・東京都板橋区雨量観測所のデータ

7月5日夕方、日本の南海からの暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気が不安定な状態となり、関東地方の各地で局地的な大雨となった。特に東京都の板橋区観測所では1時間に114ミリの非常に激しい雨を観測する等、短時間で記録的な大雨を観測した。この雨により石神井川が溝田橋付近で溢れ出す等したため、都内で450戸を超える家屋浸水が発生した。(東京都発表、平成22年7月30日時点)



# 中部 地方

## 平成22年7月15日 / 岐阜県

### 岐阜県内で時間70ミリを超える非常に激しい雨 可児市を中心に家屋や田畑等の浸水被害が発生



▲ 可児川の堤防決壊箇所(可児市広見)

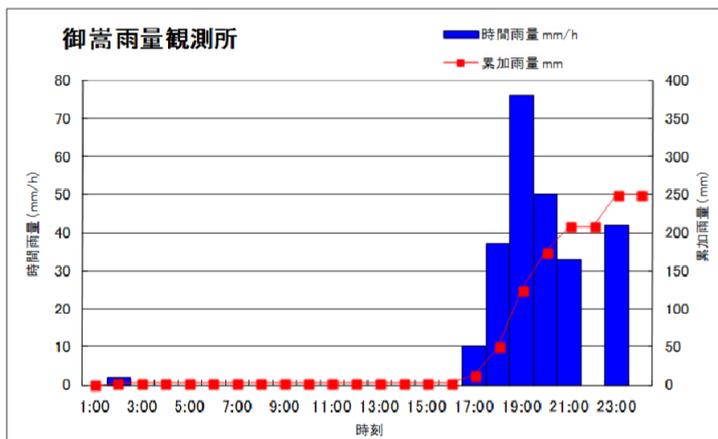
▲ 可児川沿川の状況(可児市土田) 県提供



▲ 名鉄広見線アンダーパス東側の状況(可児市土田)



▲ 同アンダーパスの上空(可児市土田) 中日本航空(株)提供



7月15日・御嵩雨量観測所のデータ

7月11日から16日未明にかけて梅雨前線の活動が活発となり、西日本から北日本の広い範囲で大雨となった。特に15日の夜のはじめ頃に岐阜県内の各地で激しい雨となり、同県多治見市で81ミリ、御嵩町76ミリの時間雨量(いずれも15日19時)を観測した。

同県可児市広見では木曾川水系可児川の堤防が決壊した他、同市土田では洪水が可児川の堤防を越えて背後の宅地や市道のアンダーパス等に流れ込み、通行中の車両を巻き込む等の大きな被害をもたらした。

この大雨による岐阜県内の一般被害は、死者・行方不明者6名、重傷者1名、住家全壊4棟、半壊3棟、一部損壊8棟、床上浸水75棟、床下浸水380棟となった。

(岐阜県発表:平成22年9月17日)

# 中国 地方

## 平成22年7月10日～15日／山口県

### 降り始めからの総雨量が600ミリに迫る大雨 県内で1500戸を超える家屋浸水被害が発生



▲ 厚狭川沿川の浸水状況(山陽小野田市厚狭)



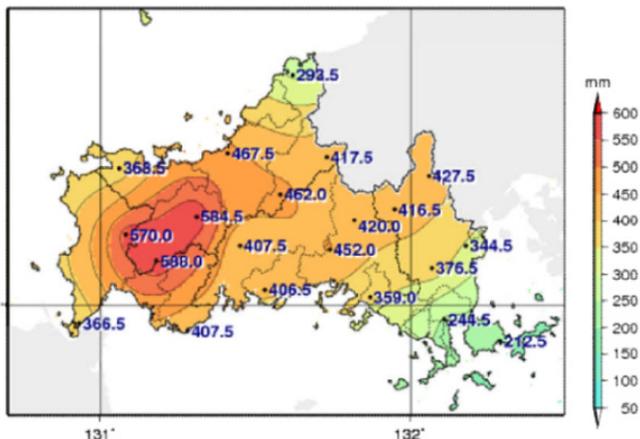
▲ 厚狭川・厚狭新橋の被災状況(山陽小野田市厚狭)



▲ 厚狭川沿川の被災状況(山陽小野田市)



▲ 木屋川沿川の浸水状況(下関市)



7月15日未明から山口県美祢市や下関市を中心に1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨となり、下関市豊田では06時28分までの1時間に72.0ミリを観測した他、10日から15日までの総雨量は、美祢市東厚保で588.0ミリ、美祢市秋吉台で584.5ミリ、下関市豊田で570.0ミリとなり、7月の平年の月降水量の1.5倍を超える大雨となった。この雨により厚狭川や木屋川等が氾濫。山陽小野田市や美祢市、下関市等の県西部を中心に、県内で床上浸水624戸、床下浸水993戸等の大きな被害が発生した。(山口県発表:平成22年8月31日)

総雨量分布図(気象庁下関地方気象台)

# 中国 地方

## 平成22年7月16日／広島県

### 庄原市で局所的に時間90mmを超える大雨を観測 河川のはん濫や土石流により死者・行方不明者を含む甚大な被害が発生



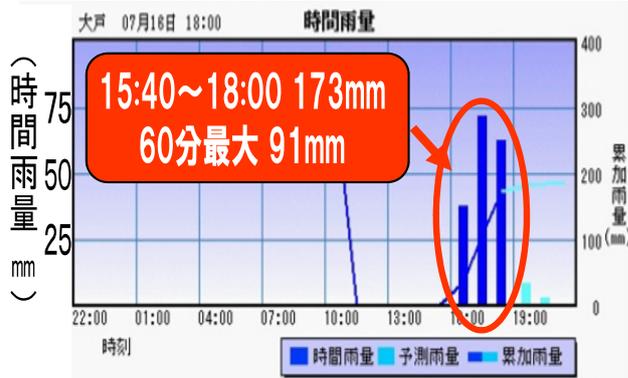
▲ 篠堂川沿川の被災状況(庄原市川北町)



▲ 大津恵川沿川の被災状況(庄原市川北町)



▲ 大津恵川沿川の被災状況(庄原市川北町)  
篠堂川沿川の被災状況(庄原市川北町) ▶



7月16日・庄原市大戸雨量観測所のデータ

7月16日、日本の南海からの暖かく湿った気流と上空の寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、広島県で局地的な大雨となった。庄原市大戸の広島県の雨量観測所では、16日16時台に60分最大91ミリの非常に激しい雨を観測した他、気象庁の庄原雨量観測所でも昭和51年の観測開始以降第1位となる日最大1時間降水量64ミリを記録した。この記録的な大雨により、同市内を流れる江の川水系大戸川、大津恵川のはん濫や土石流が発生し、巻き込まれた住民が

死亡した他、住家の流出や道路の寸断による孤立等が発生した。

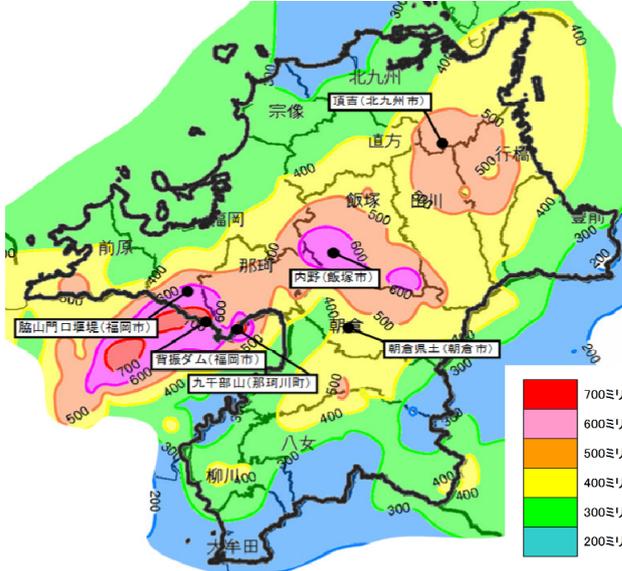
この大雨による被害状況は、一般被害：死者1名、重傷者1名、家屋の流出や全壊、床上浸水など計61棟、河川管理施設の被害：54箇所となった。

(広島県発表：平成22年9月)

# 九州 地方

平成22年7月11～15日／福岡県 等

時間雨量100ミリを超える猛烈な雨  
河川の氾濫等により九州北部を中心に  
浸水被害が発生



7月11日～15日の総雨量分布図(気象庁)



▲ 遠賀川水系彦山川の状況(直方市)



▲ 紫川水系神嶽川沿川の浸水状況(北九州市旦過市場)



▲ 遠賀川の堤防被災箇所(嘉麻市)



▲ 紫川水系東谷川の状況(北九州市)



▲ 紫川の状況(北九州市)



▲ 彦山川沿川の浸水状況(直方市)

7月14日に佐賀市の古湯雨量観測所で、時間雨量107ミリの観測史上1位の雨量を記録したのをはじめ、7月11日から15日にかけて、停滞した梅雨前線によって、九州各地で大雨となった。河川改修や洪水調節の効果により各地の浸水被害を軽減したものの、この雨による被害は、負傷者2名、住家全壊3棟、一部破損37棟、床上浸水136棟、床下浸水530棟となった。

(福岡県発表:平成22年7月15日、佐賀県発表:平成22年9月22日、長崎県発表:平成22年7月15日)

# 九州 地方

## 平成22年10月20日／鹿児島県

### 時間雨量130ミリを超える猛烈な雨 河川の氾濫等により奄美大島で浸水被害が発生



▲ 住用川沿川の浸水状況(奄美市住用町) 市提供



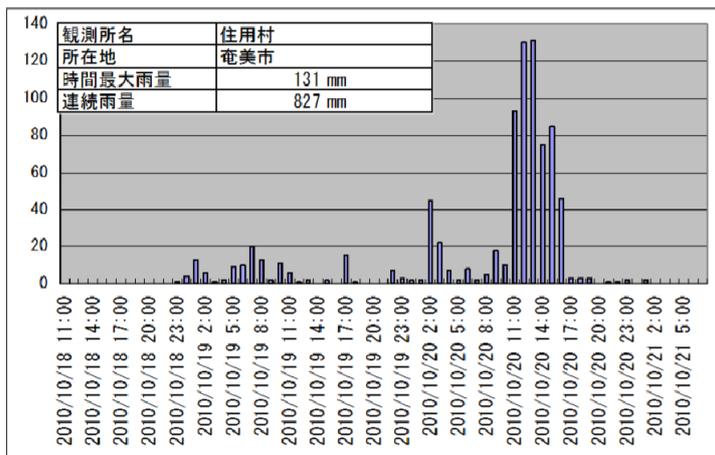
▲ 市住用総合支所内の状況(奄美市住用町) 市提供



▲ 戸口川沿川の状況(大島郡龍郷町戸口)



▲ 大美川沿川の浸水状況(大島郡龍郷町戸口)



奄美地方に停滞した前線に向かって南から湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。この影響で奄美地方では1時間に130ミリ以上の猛烈な雨となった。この雨による鹿児島県の被害は、死者3名、負傷者2名、住家全壊10棟、半壊443棟、一部破損12棟、床上浸水116棟、床下浸水851棟となった。  
(鹿児島県調べ：平成23年3月28日)

10月18日～21日・奄美市住用村雨量観測所のデータ